

（様式6-A） A. 雑誌発表論文による学位申請の場合

高橋 由美子 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 Risk Factors of Postnatal Depression and Potency of the Distress and Impact Thermometer in the Perinatal Period: A Maternity Hospital Study

（産後うつ病のリスク因子と周産期におけるつらさと支障の寒暖計を用いたスクリーニングの有用性：単一産科病院での検討）

THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL in press

Yumiko Takahashi, Hidemi Yokota, Masato Fukuda

論文の要旨及び判定理由

産後うつ病は産婦の10%程度と広く認められる疾患であり、産婦自身とともにその児や家族にも影響を与える場合のあることが社会的に重要であるが、適切な支援につながりにくい現状がある。本研究は産後うつ病の早期発見や早期介入の手がかりとするために、産科病院において継続支援すべき産婦を早期に特定するうえで有用な産後うつ病のリスクファクターについて、前方視的に検討したものである。また、産後うつ病の可能性とともにその増悪要因となる産婦の自覚的な苦痛や困難について、心理的な抵抗感なく実施しやすいスクリーニング検査であるつらさと支障の寒暖計（Distress and Impact Thermometer: DIT）を用いた評価の有用性について、あわせて検討されている。統計学的な検討により、産後うつ病のリスクファクターは産後早期の抑うつ症状の存在、精神疾患の既往、初産婦であること、DITが産後うつ病や育児支援の必要性の簡便なスクリーニング検査として有用であることが明らかになり、産後の産婦支援に貢献できる可能性が示唆された。

本研究は医学的および社会的な支援のいずれをも目的とし、論旨および方法も適切であり、有用な結果が得られたと認められ、博士（医学）の学位に値するものと判定した。

令和 4年 2月 1日

審査委員

主査 群馬大学教授（医学系研究科）
産科婦人科学 分野担任 岩瀬 明 印

副査 群馬大学教授（医学系研究科）
小児科学 分野担任 滝沢 琢己 印

副査 群馬大学教授（医学系研究科）
公衆衛生学 分野担任 浜崎 景 印